

本時のねらい

- ・自分の動作を確認することにより、基本動作である受け身の習得をめざす。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・カメラ機能を活用して自分の動作を客観視することにより、自分がどのように動いているか理解する。
- ・見本動画を見ることにより、習得する動作の理解を深め、動作のポイントに気づくことができる。
- ・撮影した動画から自分や仲間の課題を考えることにより、さらに動作の理解を深めることができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・カメラ機能
- ・ロイロノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動をする。 ・本時のめあて「正しい動きを習得する」と流れ「①班に分かれて動画を撮る②自分の動きを把握する③動きを改善する」を確認する。 	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・配信された見本動画を視聴し、重要なポイントを確認する。【写真1】 ・実際に受け身をし、動画を撮影する。【写真2】 ・撮影した班のメンバーの動画と見本動画の動きを比べ、班で、メンバーそれぞれの良い点と改善点を考える。【写真3】 ・どうすれば改善できるかを班で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の動きと比較するために、見本動画の注目すべき箇所を伝える。 ・1人1台端末を用いて撮影しながら練習をする。 ・動画撮影の際に、全身が映るようにする。 ・一時停止等の機能を活用しながら動きをチェックし、良い点と改善点を互いに伝えるように、声かけをする。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを共有する。 「自分の動画を見ることで、受け身の時に手のつき方を意識して練習することができた。」「課題を克服するために、友達と一緒に手の角度を意識して何回も同じ動きを練習することができた。」などの振り返りが出された。 	

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】見本動画を視聴している様子



【写真2】動画を撮影している様子



【写真3】撮影した動画を分析している様子

児童生徒の反応や変容

- ・見本動画と自分の動きを比べることで改善のイメージが持ちやすくなるとともに、動作ができたことによる達成感を味わい、意欲的に取り組むことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・配信した見本動画を必要な時に繰り返し見ることにより、粘り強く課題に取り組むことができる。
- ・1人1台端末を使って動画を撮影することにより、自分の動作を客観的に確認することができ、動作の改善につなげることができる。